

2009 SUPER GT 第4戦 セパン

◇◆◇灼熱のセパンを5位で終了、依然ランキングトップにつける◆◆◇

■2009年6月20～21日

■マレーシア・セパンインターナショナルサーキット

■No.24 HIS ADVAN KONDO GT-R 予選：7位 / 決勝：5位

◆6月20日 予選

【雨、晴と目まぐるしい天候の中、予選は7番手】

第3戦の富士から早や1ヵ月半。次なる舞台はSUPER GT唯一の海外戦。マレーシア・セパンインターナショナルサーキットでの1戦となる。一昨年、昨年と2年連続でセパンで勝利を遂げてきたKONDO RACINGだけにセパンはいつも以上に士気が高まる場所でもある。

今シーズン、開幕戦優勝を果たしたNo.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rは、第3戦まで連続入賞を続け、現在ポイントランキングトップ。つまり、GT500クラスの中で最重量マシンとして、セパンに乗り込んでいる。セパン3連覇、という目標は厳しいものの、数少ないチャンスをモノにし、優位な形でセパンの戦いを終えようという意識で戦いに挑んだ。

予選日の朝行われた公式練習。1時間30分の間、大半が雨となり、亜熱帯特有のスコールがときに尋常ではないほどの雨となって、路面を叩きつけた。

当然、クルマのセットアップは進まず、様子を見ながらの走行。後半になって、ようやく雨も収まり、徐々にコースの一部が乾いてくる。その中で、チームは7番手のタイムをマーク。J・P・デ・オリベイラ選手が終始ドライブし、荒は走行を見送った。

予選1回目は午後2時15分にスタート。空は明るく、日差しも見える。心なしか例年の蒸し暑さは控えめのようなのだが、それでも気温33℃、路面温度46℃と真夏そのもの。

レースウィーク初の完全ドライコンディションでスタートすることになったため、どのクルマもまずは様子見のためにコースイン。オリベイラ選手もマシンのバランスチェックを行い、その後、荒がクルマに乗り込んだ。

午前の激しい雨で路面のグリップ感が多少落ちていたというが、荒は難なく予選基準タイムをクリアし、再度オリベイラ選手にステアリングを委ね

た。

オリベイラ選手は、この後のGT500専有走行に向けて変更箇所をチェック、走行を終了した。

GT300の専有走行をはさみ、午後2時55分からGT500の専有がスタート。

気温も路温も開始当時とほぼ変わらない。

僅か10分という短いアタック時間をうまくマネージメントすることに成功したオリベイラ選手。

トラフィックを回避し、叩き出したタイムは2'00.177。6番手につけ、スーパーラップ進出を決めた。

そのスーパーラップ。持てるだけのパフォーマンスを引き出してアタックした結果、

オリベイラ選手は1'59.007のタイムをマーク。惜しくもひとつポジションを落とし7番手となったが、

明日の決勝に向けての方向性はしっかりと定まっており、

チームではいい流れの中、土曜のセッションを終了することができた。

◇ドライバーコメント◇

朝の雨ではドライブしなかったのですが、これはチームとしての判断。乗りはしなかったですが、

ドライバーとしての意見はスタッフにきちんと伝えました。

今日の予選結果は良かったと思います。重量を考えると十分でしょう。

確かに路面コンディションは、あまりいいとはいえませんでしたし、グリップレベルも全体的に低い感じがしました。

その中でJP（デ・オリベイラ）のアタックは良かったと思います。

スケジュールに沿った中でうまくメニューを消化していると思います。

時間が少ない中でもキチンとできたし、明日の決勝は晴れても雨になっても大丈夫。

できるだけ上位にいけるよう、強いレースができるよう、クルマを仕上げたいと思います。

◇監督コメント◇

ウェイトのことを考えれば、今日の結果はまずまず。今回はまずスーパーラップ進出が

第一の目標でしたので、それはひとまず達成することができました。

雨の中でも、晴れていてもクルマはいい状態なので、何も心配はしていません。

敢えていうなら、ライバルに厳しい状況を与えるという意味では、明日の決勝は

ガンガンに晴れてもらったほうがいいかもしれません。我慢比べになるとウチは有利ですからね。

◆6月21日 決勝

【ときにプッシュ、ときに粘りの走行で、5位入賞を果たす】

土曜同様、日曜もサーキットの朝はスコールから始まった。湿度が上がる中、午前10時45分から30分間のフリー走行が開始、その後、すぐにサーキットサファリが30分行われたが、こちらはあいにくの土砂降りとなった。

開始直後の気温は30℃、路面温度は34℃とまだやや曇り空。雨は上がっている。だが路面の一部が濡れていたため、WET宣言下でのセッションとなった。

オリベ이라選手は、先の雨でコンディションがリセットされた中、好タイムをマーク。荒へと交代する前に2'00.570のタイムでトップにつけた。

近づく決勝を前に、すっかりと雨雲は消え去り、完全なドライコンディションが戻ってきた。午後4時、54周にわたる決勝がスタート。7番手のポジションから少しでも序盤に上位進出を狙いたいチームでは、ガソリンを軽めに搭載し、オリベ이라選手をコースに送り出した。

また、ポールポジションのNo.1 GT-Rそして予選5番手のNo.100 NSXがそれぞれマシントラブルによりピットスタートや最後尾スタート。No.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rにとって追い風が吹いた。

オープニングラップを3番手で終了したオリベ이라選手。2位のNo.18 NSXを猛追するも、相手はハードコンパウンドのタイヤを装着。一方、No.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rはソフトタイヤ。次第に強い日差しが戻ってきたコース上では、タイヤマネジメントも戦略のひとつゆえ、ムリをすることはできない。結局、オリベ이라選手は3位を堅持し、20周終わりでピットインした。

No.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rをピットで待ち構えるスタッフは手際よく作業を進める。

ドライバー交代、給油、タイヤ交換などすべての作業を38.4秒で終了し、荒がコースに向った。

レースは後半に入り、なおも夕日がまぶしく照り付け、蒸し暑さも最高潮。

ライバルよりもひと足早めのピットインを行ったNo.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rは、

なによりもまずはタイヤマネージメントを念頭に、荒が巧みなマシンコントロールを披露した。

終盤に入ると、遅くピットインしたチームらが次第にペースを上げ、後方から追いついてる。

GT500で最重量のマシンを操り、攻防戦に挑む荒。

最後の最後までタイヤを労わる走行を継続するという厳しい仕事を完璧にこなし、見事、5位でフィニッシュ。開幕戦から4戦連続の入賞を成し遂げただけでなく、チームの目標でもあった「ランキングトップで日本へ帰る！」ことを見事果たすこととなった。

◇ドライバーコメント◇

今日の僕の仕事は、クルマをチェッカーまでキチンと運び切ることでした。

重いクルマでのタイヤマネージメントができて良かったです。

しかしながら、ハンディウエイト対策の面ではまだまだできることがあると思いました。

ペースがもう少し上がってれば、表彰台の可能性もあったのではないのでしょうか。

とはいえ、限られた中でラクではないレースをやり遂げた結果、5位に入り、ポイントも重ねることができたのはうれしいです。

ポイントトップで次の菅生を迎えることができるので、

今度は重いクルマでも強いレースができるよう、さらに頑張りたいと思います。

◇監督コメント◇

今週末のレースは、すべて公約どおりにコトが進みました。まずはスーパーラップに残ったこと、

そして決勝で5位に入り、ポイントランキングトップのまま日本に戻ることもできました。

それができてとてもうれしい。周りからは、早めのピットインに思われたようですが、

チームはどのクルマよりも重い状態でレースをしているし、暑いセパンなので、大事をとって

ピットインを行うことにしました。引き続き、このままいい状態でのレースを続けていきたいですね。